みささ

議会だより

第148号
令和８（2026）年
10月号



主な内容

- 令和７年度決算を審査 ……2～3
- ９月定例会・一般会計補正予算 …… 4
- 常任委員会で慎重審査 …… 5
- 議員８人が一般質問 …… 6～14
- 議案の賛否 ……15
- 行政視察の報告 ……16
- 職場訪問シリーズインタビュー ……17
- 大好きみささ町・研修会のお知らせ ……18

職場訪問シリーズ

P17 に三朝町在住の働く方へのインタビューを掲載しています。

有限会社三朝石油（山田）
廣田幸治さん（本泉）前、松原孝明さん（山田）奥

●まちの人口／9月30日現在　総数 5,483人（男 2,678人／女 2,805人）　世帯数 2,404世帯　●発行年月日 令和8年10月31日

令和7年度 一般会計決算を認定

一般会計決算審査特別委員会

9月11日に一般会計決算審査特別委員会（小椋泰志委員長）を開催しました。この委員会は5名の委員で構成され、総務教育・産業民生常任委員会で審査した一般会計決算の内容を、さらに細かく審査するものです。その結果、原案のとおり認定すべきものと決定しました。

三朝温泉誘客促進事業

問 **三朝温泉誘客の情報発信はどういったSNSを使っているのか。また、閲覧数等の数値把握はどのように管理しているか。**

答 令和7年はLINE、Instagram、Facebook、ABEMAの4媒体を活用した。閲覧者数等は実績報告を受ける際に確認している。



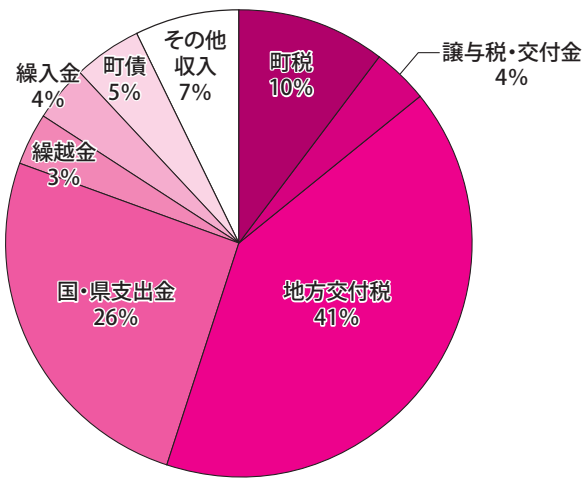
地域子育て支援センター事業

問 **ファミリーサポートセンターの利用実績が0件だった。保護者への周知が不足しているのでは。子育て世帯だけでなく、支援者候補となる住民へも事業の周知をすべきではないか。**

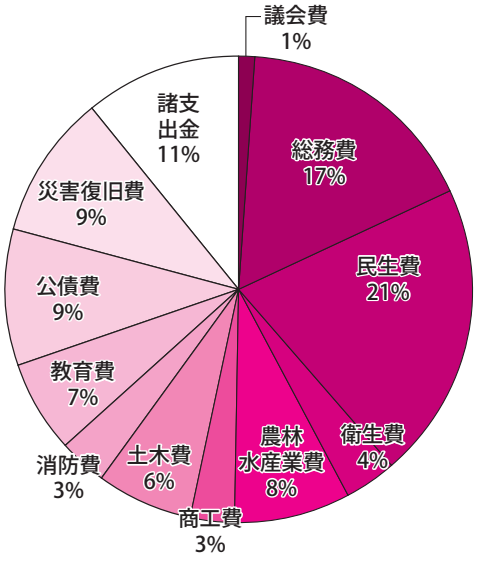
答 祖父母等に預けられる世帯や利用不要な世帯が増え、家庭内解決等が進んでいる。今後は支援者の「まかせて会員」の確保に向けた働きかけやSNS・こども園・乳幼児健診での個別案内を強化する方針である。



【歳入】 69億7,445万円



【歳出】 68億2,273万円



次のページは「一般会計補正予算」「常任委員会で慎重審査」

地域おこし協力隊事業費

問 **事業費が特別交付税措置の上限550万円に達していない理由と具体的な経費は。また、本町の協力隊員数をもっと増やすために積極的に取り組むべきではないか。**

答 年度途中採用や低い給与水準により報酬部分を使い切れなかった。令和8年度は人材確保のため給与を県平均の約21万円に引き上げ、予算を540万円に増額する。隊員数は、町の体制やニーズを考慮し決定する。

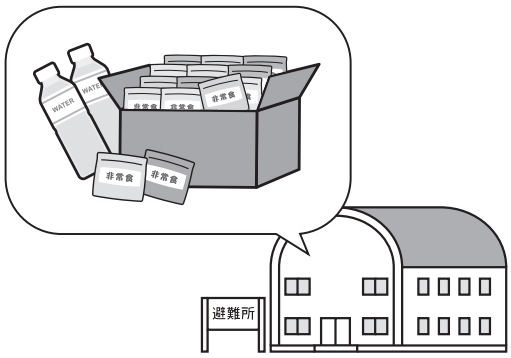


地域おこし協力隊の活動の様子

災害対策費

問 **備蓄品の一箇所集中保管は道路寸断時に活用できないリスクがある。大型扇風機やストーブ等の備蓄品が緊急時に即応できるよう補完・分散備蓄されているか。また、備蓄数量の想定根拠の説明を求める。**

答 水や食料等の消耗品は役場倉庫、パーテーション等は多目的施設等に保管。暑さ対策品は学校等へ分散配置している。備蓄の想定は、県と市町村の共同制度に基づいて行っている。令和8年8月の要領改正により、簡易ベッド等を県で1万2千人分備蓄する方針となったが、本町分は既存の備蓄で対応済みである。



いじめ・不登校対策事業全般

問 **不登校児童生徒の増加傾向を踏まえ、現状の不登校やいじめの実態把握と対策は十分であるか。人員配置や対応方策を含む取り組みの抜本的な見直しが必要ではないか。**

答 令和8年8月時点の30日以上の不登校は、小学校4名、中学校5名。いじめ認知は小学校15件、中学校4件である。年2回の心理アンケートで把握した実態を学校と教育委員会で共有し、不登校対策支援員が別室学習支援や電話連絡などを行っている。心の教室相談員の配置、不足教員の補完を行い、安定した学校運営に努めている。

このほかの7件と併せて12件の事案についての聞き取りを実施し、決算審査を行いました。

９月定例会 一般会計補正予算（3億7,991万2千円を補正し、予算総額は65億363万4千円となりました。）

９月定例会（９月４日～17日）は、町長から提出された一般会計補正予算など、23議案を審議し、原案どおり可決及び認定、同意しました。主な定例会の内容は次のとおりです。

主な補正

◇三朝温泉入浴等施設整備事業　１億4,000万円

施設の整備に伴う用地取得、造成測量、設計及び地質調査にかかる費用。

◇三朝町交流拠点施設改修事業　2,968万円

１階と２階の一部、防火シャッターや電気・機械設備等の改修。

◇物価高騰対応子育て支援給付金　685万円

０～18歳の子どもを対象に１人あたり１万円を給付する。

◇移住・定住環境整備プロジェクト事業費　323万円

空き家バンクのホームページの刷新、問い合わせ等を一元管理する顧客管理システムを新たに構築する。

教育委員会委員の任命

令和８年９月30日で任期満了となる１名の教育委員会委員について、引き続き委員として任命することに同意した。

【新教育委員会委員】　知久馬孝亮さん

【任期】　令和８年10月１日～令和12年９月30日

今、あの事業は？

温泉を活用した健康まちづくり事業

本町では現在、町民の健康増進を目的として、町内に三朝温泉入浴等施設の整備を進めており、令和８年７月から当該施設の維持管理運営業務の公募型プロポーザルを実施、優先交渉権者を決定した。

このたびの９月定例会において、指定管理者の指定の議案（議案第67号）が町から提出され、原案どおり可決した。

【指定管理者】

株式会社さんびる（所在地：島根県松江市乃白町薬師前３-３）

【指定管理期間】

三朝温泉入浴等施設の設置及び管理に関する条例の施行日～令和20年３月31日

次のページは「一般質問」

常任委員会で慎重審査

委員会における主な質疑

総務教育常任委員会

投票所・投票時間の見直し

問 **選挙の投票所の数と投票時間を見直すのはなぜか。**

答 現行の20カ所の投票所のうち、選挙人名簿登録が100人未満の投票所は9カ所ある。また、期日前投票が全体の3割を超え、選挙当日の投票所利用者が大幅に減少している。さらに、投票管理者・立会人の確保も困難になってきたためである。

問 **具体的な見直し内容は。**

答 投票所は各地域協議会の区域内に必ず1つ以上置きながら、9カ所に統合・再編する。また、投票所閉鎖時刻を1時間繰り上げる。

問 **いつから変更するのか。**

答 令和9年度の知事選挙からの適用を目指す。投票所がなくなる集落には丁寧な説明を行い、期日前投票所への車両運行等の移動支援を検討していく。

三朝町防災広場（仮称）整備事業の進捗

問 **三朝町防災広場の整備はどこまで進んでいるか。**

答 令和8年6月に入札し、測量、設計、打ち合わせ等を実施している。詳細はこれから検討するが、消防団が訓練や防災事業等で利用できるよう舗装を行いたい。

また、災害時に車等による一時避難所として利用できるよう駐車場の整備、マンホールトイレ等を備えていく。



三朝町防災広場（仮称）整備予定地

産業民生常任委員会

観光客の減少と誘客対策

問 **観光振興の取り組みを続ける中で、三朝温泉を訪れる人が令和6年度より減少している原因と、観光地としての評価が以前より下がっているのはなぜか。**

答 コロナ禍を境に団体旅行から個人旅行へと観光の形が変化しているため、観光客数は減少している。今後は、観光客数だけでなく、三朝温泉の魅力を効果的に発信し、町や旅館、観光関係団体が連携して誘客につなげる取り組みを検討する。

三朝温泉の「街歩き」と地域消費を高める取り組み

問 **「新しい三朝温泉の在り方」を検討するための調査事業は、何を目的としているのか。**

答 三朝温泉の周遊性を高め、温泉街を歩いて楽しんでもらう「街歩き」の向上と観光客の消費を町内につなげる仕組みづくりの2点を目的としている。

今後は有識者も加わり、町内の事業者から課題や街歩きを促進するには何が必要かなどの意見を聞き取り、検討を進める。

問 **陣所の館についてはどのように考えているのか。**

答 陣所の館だけを単独で考えるのではなく、三朝温泉全体の街歩きを促進するための施設の一つとして、どのような整備や活用が必要なのかを検討していく。

町内事業者の声や有識者の意見を踏まえ、最終的には三朝温泉の周遊性向上や地域内消費の拡大につながる計画として取りまとめる予定である。



白狼イルミネーション



一般質問は、議員の日常活動と調査研究、住民の声や自身の考え方をもとに、町長や教育長などの方針を問うものです。

一般質問

あなたの声を町政に

８人の議員が一般質問をおこないました。

三朝町は、執行部答弁を除き１人20分以内の制限時間内であれば、質問の回数に制限はありません。

議会だよりでは、スペースの都合上、質問と答弁が要約してありますので、臨場感ある本会議場での傍聴をお待ちしております。

ページ	質問事項	質問議員
7	1　わが町の災害対応について	山口　博
8	1　持続可能な地域防災の構築について	小椋　泰志
9	1　地域おこし協力隊による新規就農	遠藤勝太郎
10	1　三朝町における自然災害時の避難所への支援について	石谷　正
11	1　地元で働き続ける選択肢を作る取組みを	森　貴美子
12	1　地域協議会の今後の在り方	吉村美穂子
13	1　農業振興と担い手不足対策について 2　温泉を活用した健康まちづくり事業について	河村　明浩
14	1　特定地域づくり事業協同組合の設立による持続可能な人材確保について 2　民間活力を導入した空き家対策の推進について	伊藤　博文

※ケーブルテレビでは、一般質問後の最初の日曜日に、録画放送を行っています。
（10：00～、18：00～）

防災

問 空振りを恐れることなく防災対策を

答 防災対策はその都度適切に対応していく



山口　博 議員

能登地震等の発生を受けて町防災計画の見直しは

山口　能登地震や令和5年の台風7号の本町の経験から、三朝町地域防災計画の見直しはどの様になされたか。

町長　能登地震や令和5年の台風7号の経験から様々な教訓、課題を得て、防災計画の見直しを行い、令和7年度に公表した。防災計画には避難所環境の向上、建築物の耐震化などの充実強化を盛り込んだ。今後も継続して防災体制の点検を進め、実情に即して見直しをしたい。

孤立予想集落の見直しは十分か

山口　前回の質問で孤立集落の見直しを提案したがどの様に見直したのか。県の計画等もあるかと思うが、町として集落の実情、危険度を勘案して孤立集落指定を増やしても良いのではないか。空振りになっても良いので精査して指定について考えて欲しい。

町長　孤立集落の見直しを進めたが、今のところ指定集落は妥当と考える。防災対策については、孤立集落の道路やライフライン施設の復旧・確保、危険木の事前伐採等の体制見直しを行ってきた。

必要に応じて、県との情報を共有しながら併せて防災会議の意見を聞きながら、定期的な検証を改めてしていきたい。

孤立想定集落への分散備蓄の推進を

山口　孤立予想集落への分散備蓄が必要と考える。個人備蓄はある程度進んでいると思うが、集落の実情を調査して発電機やパーテーションやテントなどを備蓄することが必要ではないか。

町長　集落の備蓄品については、集落の皆さんが必要な物品を検討して、備蓄計画を立てていただくことが大事と思う。その時点で町の対応として、補助、支援を制度化して取り組みたい。

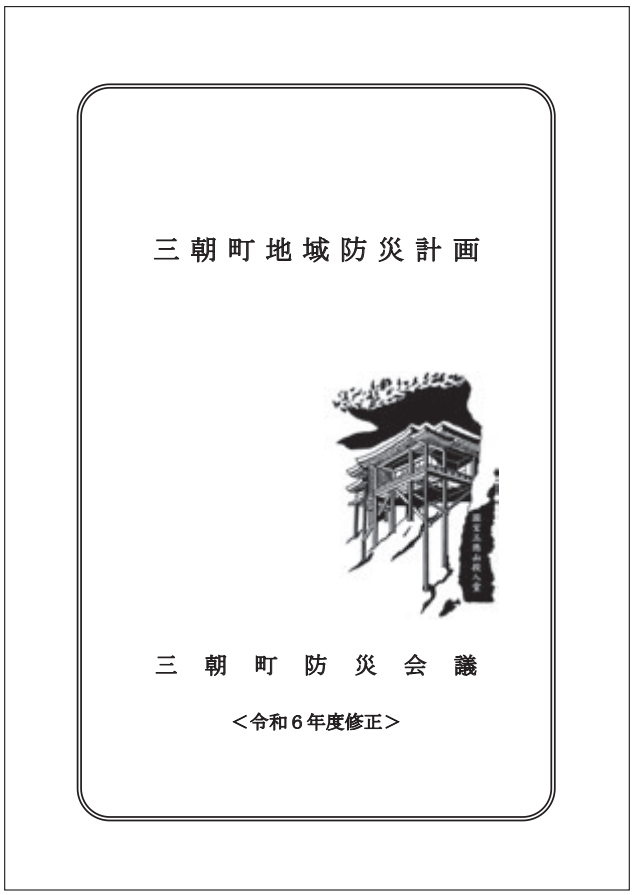
山口　改訂防災計画では孤立予想集落へ分散備蓄をすることとしているが、現在どの様になっているか。

総務課参事　現在のところ取り立てて整備はしていないが、必要性を見ながら整備していきたい。

防災対策では空振りを恐れるな

山口　空振りでも良いから、一歩先の防災対策に取り組んで欲しい。

町長　防災対策においては、これで良いと言うことはないので、その場に応じて対応していきたい。



三朝町地域防災計画（令和６年度修正版）

防災

問 災害に強い地域防災づくりを

答 地域に寄り添いながら取り組んでいく



小椋　泰志 議員

自主防災組織の現状と課題は

小椋　人口減少や高齢化が進む中、町内の自主防災組織が災害時に実際に機能できる体制となっているのか。担い手不足などの課題をどう捉えているのか。

町長　全集落を自主防災組織として位置付け、共助の中核としている。一方、役員の固定化や担い手不足が課題であり、地域協議会とも連携し、防災意識を高めながら取り組みを進めたい。

集落ごとの防災カルテの作成を

小椋　集落ごとの世帯数や高齢者、要支援者、避難場所、孤立の可能性、防災資機材などを整理した「集落防災カルテ」を作成し、地域ごとの課題を見える化してはどうか。

町長　防災マップの更新やウェブ版の作成を段階的に進めている。また、集落の支え愛マップづくりへの支援も継続している。防災カルテについては、他地域の事例も参考にしながら研究していきたい。

集落防災計画と実践的な訓練が必要では

小椋　孤立が懸念される集落をモデルに、住民・消防団・町が一体となった集落防災計画を作成し、実践的な訓練につなげてはどうか。

町長　計画づくりには時間と労力がかかることもあり、全国的に作成が進んでいない現状がある。孤立が懸念される地域について、集落や消防団と課題を共有し、防災訓練などの一部に取り入れることを検討していきたい。

「ぼうさいこくたい」を防災力向上に

小椋　倉吉市で開催される「ぼうさいこくたい2026 in 鳥取」で得られる全国の先進的な防災の知識や取り組みを、本町の防災施策に生かしてはどうか。

町長　全国の防災技術や地域コミュニティの共助を学ぶ貴重な機会と捉えている。得られた知見を本町の持続可能な地域防災の仕組みづくりに活用したい。



出典：「ぼうさいこくたい2026 in 鳥取」公式 HP（内閣府）

行政と地域が一体となった防災体制を

小椋　どの集落でも人口減少や高齢化が進んでおり、行政だけ、地域だけで災害に対応することには限界がある。日頃から地域の課題を共有し、行政と地域が一体となった持続可能な防災体制を構築すべきではないか。

町長　地域の実情を把握し、行政が地域に寄り添いながら、それぞれの役割を担うことが重要と考えている。区長会や座談会などで地域防災について集落に問題提起するなど、町として努めていきたい。

新規就農

問 地域おこし協力隊による新規就農

答 町も頑張りたい



遠藤勝太郎 議員

新規就農

遠藤　令和8年3月から農林課に地域おこし協力隊員が着任し、保ヶ平団地で梨づくりの研修をしている。3か年の任期終了後、本町で梨農家として残られるのか。

町長　現在、町内の梨農家で研修をしている。1年間を通じて収穫までの梨栽培を行い、2年目は研修を深堀していく予定。生産者や普及所などのいろんな方の協力を得て定着していただく、そういう道につなげたい。

遠藤　行政視察で栃木県那珂川町に行き、農業の実態を聞いた。那珂川町では、県のとちぎ農業マイスター設置事業により認定された梨、いちご、とまと等々のマイスター、いわゆるベテラン農業者に新規就農者は1か月100時間の指導を2年間受けることができる。研修終了後は、離農されるところで事業継承でき、就農初年度から収益を得ている。

地域おこし協力隊員が本町で農業をするなら、モデル園的施設をつくり、後押しすべきではないか。

町長　モデル園適栽培施設も一つの方法。新規就農者が受け継ぐまでの形作りができれば、いい具合に移行できるのでは。

遠藤　県が推奨するジョイント栽培は2年生苗木、棚が必要。任期終了までに施設をつくっておき、就農対応すべきでないのか。

町長　ジョイント栽培の効果や必要性は十分理解している。指導してくださる方があれば、経費を支援してでも進めていく必要がある。

遠藤　いかに早く収益を上げるかが1番大事。収益が上がらないと身が入らない。

町長　町も頑張りたい。

後継者・担い手対策

遠藤　町内では、後継者、担い手不足があらゆる産物で生じつつあり、積極的に対応を考える時だと思うが。

町長　人口減少する中で、ITなどの情報産業が飛躍的成長してきて、若い人がそちらを目指していくことが現実的に多くなっているが、中には農業を目指す人もいる。町と生産者等と連携しながら就農希望者を確保をしていく、そういった基本姿勢で取り組んでいきたい。







ジョイント栽培の様子

避難所

問 三朝町における自然災害時の避難所への支援は

答 住民の自主防災活動の協力を得て避難所環境の向上を図る



石谷　正 議員

避難所の空調整備は

石谷　令和8年7月の熊本地震などの事例から、避難所運営には様々な課題がある。また10年前の中部地震での経験や現状を検証した。

体育館の空調未整備や停電による熱中症リスクがあげられるが、町の避難所（総合スポーツセンターや三朝小学校など）は空調設備が未整備であり、酷暑期や極寒期に大勢を受け入れる避難所として成り立つのか。

町長　体育館に空調設備は無いものの、それ以外には整備している。避難所の設定は地区ごとで判断して開設する。人口規模・立地条件からすると、体育館を使わなくても避難可能と思われる。また、旧東小学校を改修中の須磨学園とは、避難所として利用できる話もあり、体育館だけではない避難所を検討していきたい。

備蓄の整備は大丈夫か

石谷　プライバシー用のテント100基や間仕切り20基、ベッド200基を備えているが、10年前の中部地震の最大避難者数369人に対し大きく不足している。

床の固さや冷えを和らげるマットもなく、健康被害が懸念される。

また、保存水（490㎖が1392本で1人当たり2ℓ未満）や保存食（2275食で約2日分）も標準目安の3日分より不足している。町の備蓄の数量は大丈夫か。

町長　鳥取県と市町村の連携備蓄制度に基づき、1日分の備蓄を町で確保し、2日目以降は被災していない自治体や民間事業者からの支援を受ける体制となっている。制度対象外の段ボールベッドやポータブル電源等は国の交付金を活用して順次整備を進めている。

町の独自備蓄を進めなければ

石谷　県の連携備蓄制度や国の支援制度があるものの、発災直後の物流停滞期を考慮すると、町独自の備蓄を毎年予算化して強化すべきではないかと思われるが。

町長　町の自主財源は約3割、自由に使える財源は15％前後と限られるため、国の支援や交付金を活用した事業化が不可欠である。単町費による手当ては他の災害対策や住民生活環境との兼ね合いを見ながら、毎年の予算の中で調整を行っている。



避難所の様子　※生成 AI によるイメージ

体育館に空調整備を

石谷　災害規模に応じた体育館などの避難場所の計画を策定し町民への周知を行う必要がある。

また、特に体育館は避難所だけでなく、いろいろな利用があるので、空調整備は必要であると思う。

最後に、備蓄や避難時の町民の問題点を含めて、どのように進めていくのか。

町長　地域住民への啓発や自主防災活動の協力を得つつ、地域や集落を巻き込んで課題を自分事として捉えてもらい、情報共有を重ねながら避難所環境の向上を図っていく。



備蓄品のイメージ　※生成 AI によるイメージ

ＩＴ学習

問 ＩＴ人材教育を町に取り入れては

答 多様な働き方ができる環境づくりは極めて重要



森　貴美子 議員

ＩＴ人材育成

森　少子高齢化で人口減少が進み、高校や大学への進学、卒業を機に町外へ出た若者が、地元で働きたくても希望する仕事を見つけにくい。ＩＴ人材育成を通して、ＩＴ技術を身につければ、町内に住みながら町外の仕事を受けるなど、働き方の選択肢が広がる。地元で働き続けられるようＩＴ人材育成に取り組んではどうか。

町長　本町においても、町内に住みながら多様な働き方ができる環境を整えることは、極めて重要だと考える。就労やキャリアアップに直結する本格的なデジタル人材育成には、十分に取り組めていない。

令和８年７月に策定した三朝町ＤＸ推進計画では、地域社会のＤＸの推進を重要施策に掲げた。地域交流のコミュニティーを支援し、多様な働く場が生まれるよう推進してまいりたい。

教育長　令和２年度からＧＩＧＡスクール構想により、児童生徒に１人１台のタブレット端末を整備し、個別最適な学びと協働的な学び、情報活用育成を進めている。高等学校・大学進学後のＩＴ人材育成は、起業や就業に必要な技能を身につけるなど、個人の自己能力開発につながるものと考えている。今後も教育活動の実状に即した学習機会の提供に取り組んでまいりたい。

ＡＩを学びに生かす

森　小学生でもスマートフォンを持ち、チャットＧＰＴなど生成ＡＩを気軽に使える時代になった。答えをそのまま聞くのではなく、「ヒントを教えて」「間違いを教えて」と問いかければ、考える力を育む学習の助けになる。一方、ＡＩの答えが正しいか確かめる力も必要だと思うが。

教育長　ＡＩを適切に活用できる力をつけていくことが、重要だと考えている。中学校においては、情報モラルや依存の危険性、情報セキュリティーを一層学ぶということになっている。

ＡＩを悪用した詐欺への備え

森　ＡＩを悪用した詐欺は、今後さらに見分けにくくなる。情報モラルや倫理感を身につけ、ＡＩを正しく活用できる人材を育てることは重要ではないか。

町長　高齢者だけでなく、若い人も詐欺に遭う可能性がある。学校教育でも社会教育でも、学ぶことが大切だと考える。

交流拠点施設に学びの場を

森　三朝町交流拠点施設の一室にＩＴの学びの場を設け、若い人が学んだり、スマートフォンの使い方がわからない高齢者も気軽に尋ねて行ける場があってもよいのでは。

町長　基本的に貸し部屋利用なので、やっていただける方があれば、次の段階で調整しようと思う。

町民にひとことインタビュー

今の時代、ＩＴの勉強は必要だと思います。
岩田尊弘（天神）



誰もが気軽に学べる気が増え、新しい発見や楽しさにつながり、暮らしがより豊かになればいいなと思います。　小椋郁美（本泉）

※画像は生成 AI によるイメージ

まちづくり

問 地域協議会の今後の在り方

答 まちづくりセンターと連携し地域課題に取り組む

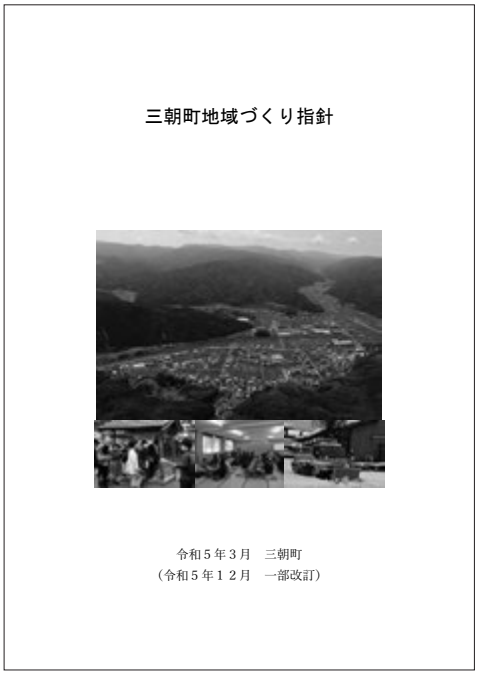


吉村美穂子 議員

地域協議会の課題を克服するために

吉村　地域活動に関わる人材不足を解決するため、地域を越えての人材バンクを作ってはどうか。

町長　域内でも活動に参加する人を増やす取り組みと、参加者の輪を広げていくことは大切だと思う。地域を越えた仕組みとしては、まちづくりセンターがサポートしていきたい。



三朝町地域づくり指針

吉村　地域協議会へ一律に補助金支援を行うだけでなく、地域がやりたいことに補助金を支援してはどうか。

町長　地域活動チャレンジ補助金を設けている。今後も地域協議会の活動に応じて活用しやすい効果の高い制度となるようつなげていきたい。

吉村　各地域に地域づくり支援員のような町の担当職員を配置して、地域の現状と課題を把握してはどうか。

町長　現在、まちづくり推進課が中心に行なっている。地域協議会の事務局と連携を密にすることで支障は無いと思う。

吉村　各地域や集落が持つ課題を、見える化するための集落カルテを作って、住民と話し合うことで、より集落の課題が身近に捉えられるのではないか。

町長　それぞれの地域の実態を把握して整理している地域もあるが、やってみるのも良いと思う。以前、試みたが課題が多すぎて整理しきれないという問題があった。

地域協議会とまちづくりセンターの役割

吉村　地域協議会とまちづくりセンターの位置づけと役割についてどのように考えているのか。

町長　三朝町地域づくり指針において、まちづくりセンターは行政と実践者の間に位置する中間支援組織としている。各地域協議会等地域が抱える課題の解決は町が先頭に立って動き、まちづくりセンターが地域をサポートする形を想定している。そして、まちづくりセンターが町と地域、また地域協議会と人を結ぶ役目を持つようにしていきたい。



第22回賀茂まつり

農業

問 持続可能な農業を目指すには

答 地域計画で農業の将来像と農地利用を具体化



河村　明浩 議員

農業を取り巻く本町の現状は

河村　持続可能な農業を目指すには、現状の見極めとそれへの対策が重要となる。町は農業従事者の高齢化率、耕作放棄地の面積推移をどう把握しているのか。

町長　農業の現状把握調査として、農林水産省による農林業センサスが行われている。令和7年度の概算値で基幹的農業従事者の高齢化率は86・7％だった。また、町で行う農地パトロール調査では、令和7年度の耕作放棄地の面積は前年と比較して2・7倍に増加している。

就農者の確保を

河村　町内だけで対策をとることが難しい状況にある今、町外からの若い就農者の募集や定年後の就農を促しては。

町長　場所があっても農業から離れてしまっている人はいる。農業を経験するということがすごく大事だと思う。現状は、移住体験等を通じて農業体験を行うなどをやっている。

三朝町農業再生プランの策定は

河村　担い手確保や新規就農促進、農地集積、スマート農業、農業所得向上を一体的に進める計画が必要では。

町長　「三朝町農業再生プラン」のような計画は非常に重要である。町では地域計画があり、当面はそれを農業再生プランとして位置付けながら手を加えていきたい。

米価格の低下による影響は

河村　米の概算金が低下することで、離農者が増えるのでは。

町長　農業経営に左右される部分もあると思うので、農業経営の在り方を考えていきたい。



稲刈りの様子

温泉施設

問 多くの方が利用し続ける施設にするには

答 健康づくりの効果を生み、楽しめ持続する施設を目指す

町民が日常的に利用するには

河村　町民が気軽に利用できるよう、町民の利用料を500円程度にしたり、交通手段を充実させるなどしては。

町長　料金体系やアクセスは、今後、運営計画の中で事業者と定めていく。

利用料金の収入はどうなるか

河村　利用料金収入の指定管理料への影響は。

町長　指定管理料は利用料収益を引いたうえで、運営にかかる費用を支払う仕組みである。

利用料金の減免は

河村　高齢者、子ども、障がい者等への減免措置や回数券の発行を検討しては。

町長　現段階では白紙である。

町外者にも魅力ある施設へ

河村　町民が本当にあってよかったと思える施設になって欲しいし、町外の方にも三朝へ来る目的に選ばれる施設となることが望ましいと思うが。

町長　町としてもそこを目指して努力してまいりたい。

人材確保

問 人材不足を国の制度で解決を

答 制度を町として支援することは考える



伊藤　博文 議員

持続可能な人材確保

伊藤　町内では深刻な人手不足が続いており、特定季節や繁忙期の人手確保が課題となっている。複数の事業者が協同組合を設立して職員を正規雇用し、時期に応じて各事業所に派遣する「特定地域づくり事業協同組合制度」を活用してはどうか。

町長　地方創生を進める上でも、人材不足等の課題を抱える中で貴重な制度であり、町として設立の支援を行うことはやぶさかでない。地域の課題の解決方法として効果的だが、ニーズがないと実現できない。仮想の組合をシミュレーションしながら事業者等と意見交換をしてみたい。



※生成 AI により作成

空き家

問 民間活力を導入した空き家対策の推進

答 新たな官民連携の枠組みを作るべき

空き家問題は重要な地域課題

伊藤　空き家問題の解決は、移住定住の促進や地域コミュニティーの維持、ひいては町の活力向上に直結する極めて重要なテーマである。これまでの役場にお任せではなく、官民それぞれの強みを生かした新たな空き家対策が必要ではないか。

町長　空き家の最前線の実務を機動力のある民間等に委ねて、行政は財政面や制度運用での支援する新たな官民連携の枠組みをつくっていくべきであると思っている。

　民間が中心となって、空き家活用が図れるように、まずその土台づくりから着実に進めていこうと思う。令和7年11月から地域プロジェクトマネージャーを配置して、さらには令和8年5月から実務をサポートする定住支援員も配置をした。そういったことを含めて、本町の移住定住、空き家対策を前進してまいりたい。



※生成 AI により作成

【議案に対する賛否】

議案番号	議案名＼議員名（議席順）	伊藤博文	石谷正	森貴美子	小椋泰志	河村明浩	吉村美穂子	山口博	藤井克孝	遠藤勝太郎	松原成利	結果
	9月定例会											
	町長提出議案名											
51	令和８年度三朝町一般会計補正予算（第２号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○		可決
52	令和８年度三朝町介護保険事業特別会計補正予算（第２号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○		可決
53	令和８年度三朝町下水道事業会計補正予算（第２号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○		可決
54	令和７年度三朝町一般会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○		認定
55	令和７年度三朝町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○		認定
56	令和７年度三朝町後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○		認定
57	令和７年度三朝町介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○		認定
58	令和７年度三朝町温泉配湯事業特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○		認定
59	令和７年度三朝町財産区特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○		認定
60	令和７年度三朝町水道事業会計決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○		認定
61	令和７年度三朝町下水道事業会計決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○		認定
62	三朝町印鑑条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○		可決
63	三朝町税条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○		可決
64	三朝町基金条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○		可決
65	三朝町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例等の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○		可決
66	三朝町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例及び三朝町乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○		可決
67	三朝温泉入浴等施設の指定管理者の指定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○		可決
68	財産の取得について（三朝温泉入浴等施設整備用地）	○	○	○	○	○	○	○	○	○		可決
69	辺地に係る公共的施設の総合整備計画について	○	○	○	○	○	○	○	○	○		可決
70	損害賠償に係る和解及び損害賠償の額の決定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○		可決
71	教育委員会委員の任命について	○	○	○	○	○	○	○	○	○		同意
	議員提出議案名											
議６	三朝町議会会議規則の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○		可決
議７	少人数学級・教職員定数の改善に係る意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	○		可決

※○は議案に対する賛成、●は反対等であることを意味しています。
※松原成利議長を除く９名の賛否状況です。

【陳情】９月定例会の陳情に対する審査結果です。

件　名	提　出　者	審査結果	審査意見
いわゆるスポットワークに係る労働者保護体制の整備について（陳情）	足羽　佑太	趣旨採択	一方的な解雇や報酬未払いなど労働者保護の観点から改善すべきだが、労働法制の整備等は国が対応すべき課題である。
個人情報保護法改正に反対する意見書の提出について（陳情）	足羽　佑太	不採択	個人情報が本人の同意なく利用・提供される懸念は理解する。現行法の円滑な施行と適切な運用に期待するのが妥当と考える。
ゆたかな学びの実現・教職員定数改善をはかるための、2027年度政府予算に係る意見書採択の陳情について	鳥取県高等学校教職員組合中部支部 鳥取県教職員組合中部支部	採択 意見書提出	ゆたかな学びを保障し、教職員の働き方改革を実現するため、国において地方教育行政の実情の十分な認識と適切な財政措置を求めることは適当である。

先進地から学ぶ

議会運営委員会・産業民生常任委員会は次のとおり先進地を訪ね、視察研修を行いました。

議会運営委員会

令和８年６月30日(火)～７月２日(木)　京都府京丹波町・京都府精華町

議会改革、議会活性化につながる議会運営とは

京丹波町議会では、議員定数や議員報酬等について、町民アンケートを実施するとともに、プレゼンテーションを行う様子をケーブルテレビで放映するなど、町民に情報を提供し、理解を得ながら議会のあり方を検討していた。

政策提言ができる議会と住民に開かれた議会の実現に向けて

精華町議会は、議会基本条例で、①町民参加･町民との協働、②情報公開･説明責任、③議会権能の発揮④政策提言・提案を柱として開かれた議会を目指している。また、住民から寄せられた意見･要望･提言の受付から検討、公表までの手続きフローの整備、事務事業評価シートを活用し、事業の廃止や見直しにつなげるなど、議会として政策形成や行政の事務事業の検証に積極的に取り組んでいる。



京丹波町での視察の様子

☞視察を終えて

京丹波町議会、精華町議会ともに、議会内部だけでなく住民の意見を積極的に聞き取り、議会運営に反映させることを重視していた。今回の視察で得た知見を今後の議会運営に生かし、町民により身近で、信頼され、政策提言のできる議会の実現につなげていきたい。

産業民生常任委員会

令和８年７月14日(火)～７月16日(木)　栃木県茂木町・栃木県那珂川町

地域の発展に寄与する道の駅の取り組み

茂木町の道の駅もてぎは、町が９割出資して第三セクターが運営している。加工場を整備し、特産の「ゆず」をはじめとする地域農産物の加工・商品化を行っている。また、自社農場でシャインマスカット栽培や高齢農家への集荷支援など、農業生産基盤の維持・発掘を強力にバックアップもしている。

イノシシ肉をはじめとした特産品振興

那珂川町では、有害鳥獣駆除の推進と地域資源の活用を狙いとしてイノシシ肉の受入から加工までを行う加工施設を町が直接整備･運営している。品質･衛生管理を徹底し、一貫した品質の商品を提供している。



那珂川町イノシシ肉加工施設見学

新規就農支援等の農業振興の取り組み

同じく、那珂川町では、南那須農業アカデミーを設立し、那珂川町・JA 那須南・県などが連携して新規就農者を確保・育成している。受講生は補助だけでなく、熟練農家である農業マイスターから１対１で月100時間以上のマンツーマン指導を受けている。

☞視察を終えて

那珂川町・茂木町に共通していた課題（有害鳥獣・過疎化・高齢化）を逆手に取り、地域資源として捉え直して迅速に挑戦する姿勢は重要だと感じた。

次のページは「大好きみさと町」「研修会のお知らせ」

職場訪問シリーズ

山田にお住まいの松原孝明さんと、本泉にお住まいの廣田幸治さんにお話を伺いました。

質問 勤めて何年ぐらいですか。仕事の内容も教えてください。

松原 40年くらいになります。給油、オイル、タイヤ交換、車の洗車やLPガス業務に携わっています。



廣田 勤めて15年目です。ガソリンスタンドでの接客やLPガスなどの仕事でお客様のお宅に伺ったりしています。

質問 三朝町に対して、どのような取り組みを期待しますか。

松原 あえて言うなら、やはり人口減少問題に取り組んでほしいと思います。町の賑わいを維持していくのは大事なことですから。

三朝温泉入浴等施設が完成したら、町を歩く人も増えて賑わいが増すのではないでしょうか。そういったところにも、三朝温泉入浴等施設に期待しているところです。

廣田 外回りの仕事をしながら「この家は、住む人がいなくなった」という話をよく聞きます。中には、立派な家だったとしてもご事情があって空き家になる場合があります。空き家対策にも力を入れてほしいと思います。

僕たちは、車関係の仕事をしていますが、移動手段がない高齢者が、店舗が少なくなって、不便な思いをしているというお話や移動販売の車が活躍している話をよく聞いています。

また、若者が集まるまちづくりに期待します。若者が集まるようなイベントなど、開催してほしいですね。若い世代が結婚する人が増えれば、少しずつであったとしても、人口の増加につながるのではないでしょうか。僕もまだ独身ですけど、将来的には、考えていきたい内容です。



質問 将来してみたいことや、やりがいに思っていることなど、あれば教えてください。

廣田 個人的には、魚釣りが趣味です。でっかいイカを釣りたいです。あと、僕はバイクも好きです。三朝町は、バイクのライダーたちにも人気の高い町だと感じています。10台ぐらい、一斉に給油に来られたこともありました。そういった面も広く伝わるといいなと思います。

三朝町は車社会なので、仕事を通して、町民の皆さんにお役に立てることにやりがいを感じています。皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

取材のご協力ありがとうございました。

お二人の働いている**有限会社三朝石油**とは…



車等への燃料の給油・点検などを行うガソリンスタンド

シリーズ

大好き みさき町 ～私の思い～



三朝中学校１年
内田菜那子

三朝町への想い

三朝町は、日本一危険な国宝やよく効く癒しのラジウム温泉、きれいでおもてなしが行き届いた旅館などたくさんの良さがあります。こんなに魅力が詰まっているのに「なぜ、人が集まってこない？あまり知られていない？」という疑問がわいてきたので、自分なりに考えたり、スマホで調べたりしました。すると、二つの課題を見つけました。一つ目は、食べ歩きのできる店やショッピングモールなど若い人たちが集まる所がないことです。二つ目は、スーパーや親子で遊べる施設などがないことです。三朝の魅力は三徳山や温泉、落ち着いた街並みだと思います。そこでこれらの課題を解決するアイデアを考えました。

鳥取県を代表するフルーツの梨を使った店を作るといいと思います。また、使わなくなった土地や公園を新しくして、いつでも遊べるアスレチックパークを作れば、もっとたくさんの人が集まると思います。

三朝には、良い旅館や温泉などたくさんの魅力があります。それを大切にしながら、新しい施設や店を作ることで、町が明るくなり、人が集まってくる場所になればいいなと思います。観光客や住民も笑顔があふれる三朝町になることを期待しています。

議会・委員会を傍聴しませんか

議会の審議はみなさんに公開しています。本会議、委員会等での審議がどのように進められているのか、直接ご覧になってみませんか。

どなたでも傍聴できますので、お気軽に役場２階へお越しください。

※常任委員会・全員協議会の傍聴には委員長・議長の許可が必要です。

詳しくは**議会事務局（電話43-3511）**にお問い合わせください。

12月定例会の日程予定（案）

会期　12月８日～12月16日（９日間）

※日程は変更になる場合があります。

※近づきましたら、防災無線、町ホームページでもお知らせします。

＼一緒に心地よい関係づくりを考えてみませんか？／

三朝町議会議員研修会

どなたでも参加 OK（事前申し込み不要・参加無料）

誰もが知っておきたいハラスメント
～抑えておきたいポイント～

【日　時】令和８年11月14日（土）　14：00～15：00

【会　場】三朝町総合文化ホール 大会議室
【講　師】宮本 剛志 氏（株式会社メンタル・リンク代表取締役 / 公認心理師・シニア産業カウンセラー）
【内　容】ハラスメントの基礎知識や身近な対策のポイント等
【問合せ】議会事務局（TEL：0858-43-3511）

おわりにちょっとひとこと

近年至る所で大災害が頻発しています。熊本の10年目に起きた大地震をはじめ、千葉県、石川県、富山県の浸水被害など、これまで想定されなかった場所で多くの被害が発生しています。

10年前に鳥取県中部で起きた地震が思い起こされます。何時どこで大規模災害が発生するか分からない昨今、わが身を守る備えが必要です。

９月定例議会の一般質問では３名の議員が防災に関する提案を行いました。

（山口　博記）

発行責任者
議　長　松原　成利
編　集
議会広報常任委員会
委員長　森　貴美子
副委員長　藤井　克孝
委　員　山口　博
委　員　石谷　正
委　員　伊藤　博文